

来ぶらり5

難民キャンプにも図書館が!!

図書館長 波多野里望

(法学部教授・国際法)



1975年くらい、戦乱に明け暮れるインドシナ。戦火を逃れるために故国を捨てた難民は、すでに100万をこえている。

小舟に生命を託して海に出たボートピープル。何百キロもの道のりを歩きつづけてやっとタイ領にたどりついたランドピープル。

1982年11月、タイに飛んだ私は、カンボジアとの国境に近いノン・サメットにある難民キャンプを訪れる機会を得た。

難民ひとりあたりの食費は1日23セント(約53円)。それでも、物価が安いおかげで、米2.8キロ、鶏肉150グラム、豆350グラム、それに500グラムの野菜が、毎週、配給される。「1日2000カロリー」という基準は、けっして「高い」とはいえないが、肉はゼロで、週2.1キロの米さえ運配の多かった終戦前後の日本にくらべれば、「はるかに恵まれている」というべきであろう。

そのせいか、難民キャンプの子どもたちは、実に明るく、よく遊び、元気に学校に通っている。それは、もっと悲惨な事態を予想していた私にとっては、ちよつとした「驚き」であり、大きな「救い」でもあった。

しかも、校舎の隣の小さな掘立小屋では、十数人の子どもたちが、むさぼるように本を読んでいる。ふと眼を上げると、その小屋の入口には大きな看板がかかっており、そこには、黒々としたタイ文字の下に、なんと、“LIBRARY”と書かれているではないか!!

私はクリスチャンではないが、その時ばかりは、「ひとはパンのみにて生きるにあらず」という聖書の言葉の重みを、文字どおり「全身で」感じとっていた。

11月から翌年の4月ごろまではインドシナの乾季。ベトナム軍の攻撃が激しくなる季節である。あの子どもたちは、みんな元気だろうか? あの茅ぶきのミニ図書館は、まだ無事だろうか?



飢えに苦しむことも戦火におびえることもなく、図書館でひたすら読書に打ちこんでいる学生諸君の姿を見るたびに、私は、明日の生命もわからない身でありながら、なお、本にかじりついていた

難民の子どもたちに思いを馳せ、「平和」のありがたさを、今さらのように噛みしめている。

レポート・ゼミ論・卒論と、論文を書く機会の多い大学生活。「書くことは苦手」などと言わずに、頭と、そしてちょっとからだを動かして、ひと味違った論文を書いてみてはどうだろう。書く楽しさも体得できるかもしれない。書誌・書目・文献目録 etc. 手だてはいろいろあるはずだ。「書誌って何だろう?」そう疑問に思ったら、もうあなたは、一步踏み出しているといっていだろう。



急がばまわれ ——文献目録を使おう——

1. もっと知りたい

ふだんの生活の中で、いろいろなでき事に出会う。そして、「なぜだろう?」「もっとよく知りたい」と思う機会が多い。けれども、意識してそれらをすくあげるように努めないかぎり、うたかたのように消えてゆく。こうした日常の小さな疑問を軽しく捨ててしまったりせず、もっと知りたいと思うことのできる人を、「好奇心が強い」と言うのであろう。

小さな好奇心をできるだけ満たしてゆくこと、そして、それを積み重ねてゆくことが、もっと大きな好奇心を育てることにつながるはずだ。この大切なチャンスを逃がすことなく、「理解しよう」と実際にからだを動かすかどうか、怠惰か否かのわかれ目になると言ってよいだろう。「抱いた疑問を疑問としてまともに受けとめられる」ということが、精神の若さなのだと思う。

2. 何を知っているのか

ほかから与えられた問題、たとえばレポートの提出を求められているような課題であったとしても、その事について、何を知っているのか、関係がありそうな自分の知識を、洗いざらいはき出してみる。すると、それは大したことがない。そう感じるのが普通だろう。そこから新たな自分の問題が生まれてくる。「足りない感じ」をまずいからかでも埋めなくてはならない。

そこで思いつくのは、百科事典や各種の専門事典のたぐいだろう。それで、不十分だった知識を補ったり、確かめたりすることはできる。知りたいと考えたことのポイントが修正されることもある。けれどそこで得られるのは一般的な解説にすぎない。自分なりの理解をしよう、そして自分の考えを固め、それを表現にまでつなげようとするには、いささが弱いと言わなければなるまい。

3. 異なる解釈を求めて

疑問や課題を、自分の問題として自分に課すところまで育てあげる。そう意識して動けば、周辺の知識はおのずから増してゆき、問題はもっとと具体的になる。自分の知りたいことが、ほんとうは何なのか少しずつ見えてくる。その上に、新たに知りたい事が生まれてくることもある。やがて解説記事にあきたらなくなって、事実のデータや立場の異なるオリジナル文献を求めることになるだろう。そうなって欲しい。

どうやって文献資料の存在を知るのか。友だちや先生が教えてくれることもある。けれど、もっと広い範囲の中から、自分の目でそれを選び出したい。実はこうした目的のために用意された道具があるのだ。書目と文献目録といわれているものがこれである。もっと広く書誌と言うこともある。これを使わなくては損だ。

4. 文献目録という道具

この道具には、それらが作られた事情や使う目的によって、たくさんの種類があるが、道具であるからどう使いこなすかにすべてかかっている。

- a. 全国書誌：たとえば日本の出版物を全部記録しておこうとして作られるものがこれだ。
- b. 主題書誌：特定の主題に限定してリスト・アップするもので、「経済史文献目録」とか、「地理学文献目録」などがこれ。
- c. 人物書誌：個人の著作目録とその人物に関する文献のリストだ。「夏目漱石関係文献目録」とか「三島由紀夫書誌」など、いろいろある。

ざっと分けてみるとこうなる。いきなり目的地へ向かおうとしないで、まず地図を見よう。「いそがばまわれ」の教えに素直に従って、文献目録を使うわけだ。(運用課長 佐野 眞)

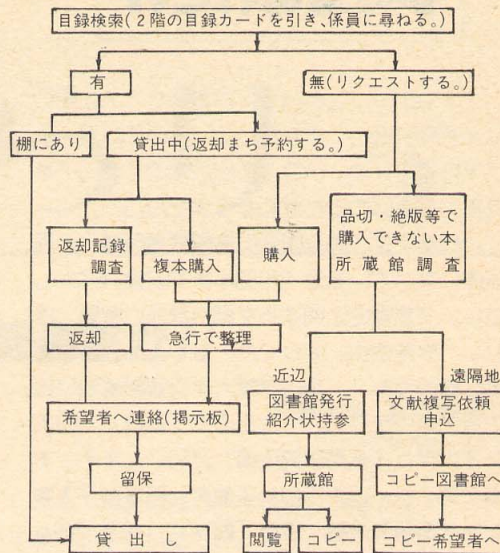
岩波書店から1月に発行された『ウフィツィ美術館素描版画室蔵ラファエル口素描集』を図書館で購入した。日本語版限定145部の超豪華本。39枚のファクシミリ図版と解説から成り、絵好きにはたまらない。

読みたい本が見つからないときは？

利用者の皆様、図書館にリクエストサービスのあることをご存じですか？リクエストサービスとは、利用者が求めた資料を一定期限内に必ず希望者に提供する制度です。「図書館へ行って、古い本ばかりで読みたい本がないから行かない」なんて言わないで、たくさんリクエストしてください。

2階の目録カードをひいても読みたい本が見つからないときは、遠慮せず係員にお尋ねください。新刊書は、カードがなくてもすでに入っている場合があります。また、誰かが借用中でしたら、返却待ち予約をしてください。返却され次第、お知らせいたします。返却待ち予約が多ければ、追加購入してお貸しします。係員に尋ねてもない場合は、あきらめないで、図書希望票に「書名」「著者名」「発行所」「定価」「連絡先」などを記入して、リクエストしてください。急いで購入します。もし、絶版・品切等で購入できない場合は、所蔵館を調査して「紹介状」を発行いたします。それを持って直接所蔵館へ行って、閲覧してください。所蔵館が遠隔地の場合は、文献複写を依頼してコピーを取り寄せます。

リクエスト・予約サービス



リクエストサービスは、資料を提供するまで約2週間から4週間くらいかかりますので、余裕をもって早めにリクエストしてください。58年度は、リクエストで98万円、図書を購入いたしました。この制度は高額学費へのささやかな還元制度です。皆様の利用をお待ちしています。

(受入係 越川孝昭)

中央図書館に『ちゆうちゆうきよしゃほん 雕虫居写本』という160冊からなる大部の叢書がある。雕虫居と号した佐藤誠が自ら書写した写本を中心に集成したもので、その内容は、紀行・歌書・詩文・伝記・系譜・目録・金石文などとすこぶる多岐にわたっている。

すでに昭和4年(1929)に刊行された本院の蔵書目録に載り、また『国書総目録』(岩波書店)にもその内容が記載されているので、遠方から閲覧にみえる方も多し。だが、筆写年代が明治と比較的新しく、かつ編者佐藤誠がほとんど無名であるため、成立事情、編者について問われることが多い。以下編者について簡単に紹介しておく。

佐藤氏、名は誠、字は思誠。硯湖・尚古齋・雕虫居・市谷山人などと号した。漢学を高野真齋に、和歌を橘曙覧・井上文雄に、漢詩を大沼枕山・広瀬青村に学び、また篆刻を羽倉可亭に学び、最も

『雕虫居写本』について

その技に秀でていたという。

雕虫居の号もこれに拠るのであろう。はじめ福井藩主松平慶永(春嶽)に仕えて祐筆となったが、のち行政官筆生となる。明治2年(1869)上京し、太政官主記、同12年には宮内省文学御用掛となった。同19年職を辞めたが、殉難書取調を囑託された。金石文に興味をもち、広くこれを蒐集し板行の意図があったが、成らずして明治23年病没した。享年60歳。

蔵書は没後、散逸したという。本館所蔵の160冊のほか、国立国会図書館や東北大学などの蔵書目録に、彼の金石文関係の写本や詩文集が散見する。筆写は丁寧で、親本の所蔵者や筆写年月日などが奥書きされている。惜しむらくは、集書の範囲が広い上に未整理で遺されたため、その全貌を把握できず、集書が恣意的に見られがちなことである。

(受入係 小高 方)

West Pub. Co. から発行された『United State Code Annotated(U. S. C. A.)』、補遺を含め200冊を越える米国法令集を本学法経図書室で購入した。各条文の成立経緯をまとめた注と、関連する判例も載っている。

参考室あれこれ

「ナカジマクニという人が書いた『大正期の女子教育』という本を探しているのですが…」
「単行本ですか、いつごろ出た本ですか。」「単行本です。いつ出たかわかりません。」

とりあえず『国立国会図書館蔵書目録』の冊子体になっている分(1968年まで収録)をひく。なし。『教育史に関する文献目録並に解題 改訂』『教育索引』をひくが、ない。他大学の蔵書目録のうち、『青山学院大学図書館蔵書目録』の書名索引をひく。『大正の女子教育』(日本女子大学女子教育研究所編)が目にとまる。本編を開くと、「大正の女子教育 日本女子大学女子教育研究所編 東京 国土社 1975 349p 21cm (女子教育研究双書5) 内容：……大正期の女子教育(中嶋邦) 臨時教育会議と女子教育(遠藤明子)……」とあり、単行本の書名

ではなく、一論文名であることがわかった。全体の書名・出版年が確認できたので、国会図書館のカード目録(1969年以降)をひくと、見つかった。日本女子大学に所蔵されていることを確かめて、利用者はそちらへ出かけていった。

ふつうは、質問者(利用者)のもっている情報量のほうが多いので、ついついその言葉信じ、あるいはそれにこだわってしまう。著者名・図書名・雑誌名・出版年などが間違っていた。「単行本だ」ということであつたが雑誌に載っている論文であつた、「別巻を見たい」ということで探したところ本冊の付録であつた、などなど苦い経験がいくつもあるにもかかわらず、またやってしまった。その意味では、求める文献が紹介されている図書・雑誌などを持参されるのがいちばん間違いがない。(もつとも時には、文献そのものの中に誤記・誤植があるけれども)
(参考係 久保田安子)

文献複写—資料集めこぼれ話—

大学院生のMさんはこの3年の間に、研究に必要な資料をコピーで約3400枚集めた。このために数十万円を費したという。彼の研究テーマは江戸初期の儒者、伊藤仁斎。天理図書館所蔵古義堂文庫(仁斎の塾「古義堂」に伝わった蔵書およそ7500冊からなる)の資料が不可欠である。個人の資格ではなかなか困難な文献の複写や閲覧が、図書館間の相互協力を通してできることを知るまでは、何度も天理図書館に足を運んだり手紙で照会したり、たいへん苦労したという。ようやく基本資料の収集をおえたMさんは、春なのにその懐には木枯しが吹きはじめているけれども、いま博士論文の執筆にもえている。

(運用係 野村恵子)

お知らせ

○Congratulations!

新入生の皆さん、御入学おめでとうございます!
図書館からのアピールをひとこと——

図書館は、授業や試験の勉強をするところ、それだけではありません。読書に、調べものに、教養を高めるために、また、ちょっとのんびりしたいとき、図書館はいつでも皆さんをお待ちしています。開館時間は、平日8:50-18:30、土曜日8:50-16:30、レファレンスも受けつけています。

○「カウント・アイ」を取りつけました

皆さんの利用状況を知る手掛かりのひとつとして、今年の1月からカウント・アイを設置。入館の人数を数えています。ちなみに、今まで最も入館人数が多かったのは1月30日で、2,475名でした。

○図書館が変わります!

3階にビデオ・コーナーを開く予定。また、コピーがコイン式になり、各自で複写できるようになります。少しでも使いやすい図書館を目指しています。皆さんの声をどんどんお聞かせください。

来ぶらり No.5 1984年4月1日発行

発行責任者：波多野里望

編集委員：甲斐静子 清水裕子 中村丈夫

学習院大学図書館 〒171 東京都豊島区目白1-5-1 ☎(986)0221